

平成 29 年度

政策づくり塾塾生と京都府立大学公共政策学部窪田ゼミによる

舞鶴版「地方創生」についてのレビュー

報 告 書

平成 30 年 1 月

平成 29 年度 政策づくり塾塾生と京都府立大学公共政策学部窪田ゼミ

による舞鶴版「地方創生」についてのレビューにおける提案・意見

11月19日に開催された舞鶴版「地方創生」についての市民レビューと同時に政策づくり塾塾生（以下、塾生）と京都府立大学公共政策学部窪田ゼミの学生（以下、府大生）によるレビュー（以下、塾生と府大生によるレビュー）を実施しました。この塾生と府大生によるレビューは、政策づくり塾の活性化と塾生のさらなる能力開発のために、市民レビューにおいて塾生が実際に参加して評価を行う機会を設けることを目的とするものです。活発な意見交換が行われ、様々な意見や提案、感想などが出されましたので、その結果を報告いたします。

平成 30 年 1 月 1 2 日

平成 29 年度 塾生と府大生によるレビュー

コーディネーター 池田 葉月

【主な提案・アイデア】

1. 健康づくりについては、長期的な視点で考えれば、働き盛り世代の関心や意識を高めることが重要である。
2. 地域資源を活かしたまちづくりについては、ポテンシャルのある地域資源が存在することは確かだが、既存の観光資源にも改善の余地がある。そのため、新たな地域資源の発掘と観光資源化よりも、その魅力やブランド力をさらに高めていくことにより力を入れる方がよいのではないか。

【意見・感想】

1. 情報発信の重要性が指摘されることは多いが、対象者の明確化と時代や社会の潮流に合わせた視点や考え方を持つことが必要である。
2. 行政と、行政以外の主体（民間企業、非営利組織、市民）がそれぞれの得意分野を活かし、協力できるような役割分担を考えることが重要である。
3. 自分の仕事に関係する政策以外の政策について考える機会や、異なる立場の人と意見を交換する機会は少ないので、勉強になり、刺激を受けたし、参加してよかった。

平成 29 年度「塾生と府大生によるレビュー」概要

《塾生と府大生によるレビューについて》

◆日時

平成 29 年 11 月 19 日（日）9 時～14 時 30 分

◆場所

市政記念館ホール及び舞鶴市役所内会議室

◆概要

政策づくり塾の活性化と塾生のさらなる能力開発のために、市民レビューにおいて塾生が実際に参加して評価を行う機会を設けることを目的に実施した。具体的には、①行政評価の手法について見識を深めること、②政策評価の観点から政策づくりを考えること、③舞鶴市外の若者（大学生）との意見交換を通じて市政について考えること、④市の課題に対する解決策を考えることを通じて「次代の舞鶴市を担う人材」を育成することを目指している。そのために、①市民レビューの傍聴、②京都府立大学公共政策学部窪田ゼミの学生との意見交換と評価、③議論結果報告と感想文の提出に取り組んだ。

第 1 部では、舞鶴版「地方創生」のねらいや目標、様々な取り組みに関する多々見市長による説明を聞き、学習した。

第 2 部では、まず、第 1 テーマの「安心して健康に暮らせるまちづくりの推進」における意見交換と評価を傍聴し、行政評価の方法や議論の雰囲気学んだ。続いて、第 2 テーマの「地域資源を活かしたまちづくりの推進」についての市の説明を聞いた後、市役所内の会議室において塾生と府大生がこれらの 2 つのテーマについて意見交換と評価を行った。

◆参加者

◇ コーディネーター 池田葉月 京都府立大学公共政策学研究科 博士後期課程 1 回生

◇ 審査員・傍聴者・コーディネーター補助員（2 つのグループに分けて実施）

政策づくり塾塾生 11 名

京都府立大学公共政策学部窪田ゼミ 7 名（京都府立大学公共政策学部 2 回生・3 回生）

第1部 舞鶴版・地方創生について

(1) 市長あいさつ

(2) 市長によるプレゼン～「舞鶴版・地方創生」について～（資料による）

第2部 塾生と府大生によるレビュー

第1テーマ 「安心に健康に暮らせるまちづくりの推進」

(1) 担当課による説明（資料による）

(2) 地域での取組発表（資料による）

(3) 塾生と府立大生による意見交換

- ◆役割 コーディネーター：池田葉月
コーディネーター補助員：宮谷和輝、岸本大輝、芳賀愛永
審査員（塾生）：山下さつき、齊藤勝太、岸田由紀子、山中宏介、池嶋佑太
審査員（学生）：石昊、森田直希、山田茉桜
書記：山本智隆、塩見恵利



◆主な意見

①取り組みをより良くするためには

子ども世代へのアプローチ

- 幼少期のケアは手厚いが小中高期に対するケアが少ない。実際に病気になってからではかかる費用も多額になってしまうので予防のための支援がもっと必要ではないか。
- 育児に関して母親任せがまだ多い。父親に対しての育児の案内や、父子サークルなど父親が育児に積極的に関わるようにするための取り組みにもっと力を入れるべきではないか。

- 相談窓口の対応時間内に相談に行く時間がない人も多い。ネットを活用して 24 時間受付可能な窓口を作る等のケアはどうか。
- 育児に関して高齢者世代との交流を行うことで、昔に比べて薄くなってきた地域でのつながりによるケアの代わりになるではないか。

働き盛り世代・高齢者世代へのアプローチ

- 検査結果の数値が示されるだけでは危機感を持ちにくいので、どのように危険なのか、どの程度改善が必要なのか、どのように改善すればよいのかなどを具体的に提示するなどして、危機感を持たせることが必要である。行政では難しいかもしれないが、危機感がない人に対しては多少の強引さが必要ではないか。
- 職場や地域などの身近なところにアンバサダーのような声かけ要員を配置し、健康への関心を高める。
- 無関心層は、健康に配慮することに対して「面倒くさい」、「時間がかかる」、「お金がかかる」などと考えているため、その負担感を軽減する工夫が必要である。
- 多くの方は、実際に病気になるなど問題が生じてからでなければ行動しないので、子どもの頃からもっと教育を行い、健康に対する意識付けを行うことが必要である。例えば、中国では小中学校で週に 1 回「健康」という授業がある。また、子どもに教えることは親への啓発にもつながることが期待できる。
- 高齢者に対する地域での健康増進企画などへの参加者は、意識の高い人が中心になっているので、情報の周知が必要である。

②市民ができること

- 職場での環境づくりに取り組み、事業所単位で健康づくりへのきっかけの場を増やす。例えば、職場での健康診断の実施にもっと力を入れる、休みを取りやすくする、健康状態の改善（例えば減量など）を給与に反映させるなど。
- 健康づくりに関するイベントや運動の機会などがあれば、周りの人をさそって参加してみる。1 人よりも参加しやすいし、情報の共有・拡散にもつながると考えられる。

③その他意見

- 歩いて暮らせるまちづくり、歩きたくなるまちづくりという説明があったが、特に地方はマイカーが普及しており、公共交通の利用者も少ないという環境であるため、難しい課題だと感じる。
- 健康だけに捕らわれず、様々な分野とコラボすることで多くの人に情報を提供できるのではないか。例えば遊び、音楽、教育、食、観光など。

（参考：傍聴者の主な意見）

①取り組みをより良くするためには

- 働きざかりの世代の親に対して、子どもを通じてアプローチできる仕組みがあれば参加者が増えるのではないか。例えば親と子、高齢者と孫などで参加できるイベントの開催など。

②市民ができること

- 仕事を休める会社づくりが必要。
- 検診を受診する際や健康づくりに関するイベントなどに参加する際に友人や知人にも声をかける。
- 夏休みのラジオ体操に子どもだけでなく、地域の高齢者も参加できるようにする

(4) 審査員 評価結果

	①より力を入れて 推進する	②今のやり方で進める	③やり方に工夫が必要
取り組みの 方向性	7	1	1

(5) コーディネーターによる総括

取り組みの方向性としては「より力を入れて推進する」が9人中7人と最も多かった。ただし、以下のような点で特に工夫が必要であるという意見が多く出された。

- 働き盛り世代は他の世代に比べると元気な人が多が、長期的な視点で考えれば、健康を意識して生活することは重要である。しかし、仕事が忙しく、わかってはいても健康づくりは後回しにしてしまう人や、健康に対して無関心な人も少なくない。そのため、働き盛り世代が多く時間を過ごす職場で取り組めるようにすることが重要であり、必要である。そのためには市役所が率先して取り組むことも必要ではないか。
- 情報の伝え方を工夫してはどうか。例えば検診の結果を伝える際に、数値が標準的かどうかだけでなく、具体的な危険性や必要な改善の程度、改善策なども示すようにすれば、健康づくりにより積極的に取り組むようになるのではないか。
- 友人、親子、高齢者と孫など、1人ではなく誰かと一緒に取り組めることは重要である。取り組みに対するハードルが下がるだけでなく、周囲への波及効果も期待できる。

第2テーマ 「地域資源を活かしたまちづくりの推進」

(1) 担当課による説明（資料による）

(2) 塾生と府大生による意見交換

◆役割 コーディネーター：池田葉月

コーディネーター補助員：石昊、森田直希、山田茉桜

審査員（塾生）：塩見恵利、山本智隆、千坂文人、岩本真太郎、
長岡健一郎、吉岡達也

審査員（学生）：宮谷和輝、岸本大輝、芳賀愛永

書記：岸田由紀子、山中宏介



◆主な意見

①取り組みをより良くするためには

観光スポットから街中へ観光客を誘致するために

- 現状では点の整備のみが先行しているため、線や面の整備が必要である。例えば、観光地を巡るバスツアーをするなどの利便性を改善する、
- 交通の便が悪く、観光地周辺の駐車場に余力がないことに対して、商店街などの地域活性化にも力を入れるなど、街中へ行くための交通手段や仕掛けづくりを行う。

歴史・文化を活かすために

- 歴史に興味のない層にもある程度興味を持ってもらえるような工夫が必要である。
- 寺社仏閣で座禅や写経などを体験できるようにし、体験型の観光を推進する。また、西舞鶴地区の寺社仏閣に宿泊できるようにすることで観光地から街中へ行く仕掛けの1つにもなるのではないかと。
- 学校で本市の歴史や特産物などについて学ぶ機会を作る。市民自身が舞鶴の魅力やブランド力を知ることが重要である。
- 修学旅行を誘致し、本市の学生との交流を図る。

②市民ができること

- 市民自身が舞鶴の歴史や魅力を学習し、魅力を語れるようになることが必要である。例えば、学校で市について学習する機会を設ける、観光地に実際に行ってみるなど。
- 行政と民間企業がそれぞれの得意な部分を活かして協働で街の活性化に取り組む必要がある。例えば、街の賑わい創出やプロデュースなどは行政ではなく民間企業が実施した方が効果的ではないか。

(参考：傍聴者の主な意見)

①取り組みをより良くするためには

- 観光地の PR や知名度の向上につながるような、より効果的な情報発信や情報発信の強化が必要。例えば SNS やインターネットをより効果的に使うことが必要。
- 体験型のイベントや観光プランを用意する。
- 歴史があるということだけを単にアピールするだけでなく、ニーズに合わせてアレンジすることが必要。

②市民ができること

- 市民自身が自分の街を知る。
- SNS などを利用してより効果的な情報発信を行う。

(3) 市民審査員 評価結果

	①より力を入れて推進する	②今のやり方で進める	③やり方に工夫が必要
取り組みの方向性	6	1	2

(4) コーディネーターによる総括

取り組みの方向性としては「より力を入れて推進する」が9人中6人と最も多かった。ただし、以下のような点で特に工夫が必要であるという意見が多く出された。

- 誰を対象とするのかを明確にすべきである。対象者によって効果的な情報発信の方法や観光に対して求めているものは異なる。特に、歴史を PR する場合にはこの観点は重要である。例えば寺社仏閣を PR する場合、外国人に対しては体験型の企画が効果的ではないか。
- ポテンシャルはあるが、新たな観光資源の開発よりも、既存の観光資源にも改善の余地があり、その魅力やブランド力をさらに高めていくことが重要である。
- 舞鶴市にとって観光は重要な産業の1つだが、観光という分野の性質上、行政以外の主体（民間企業、非営利組織、市民）の方が得意なことや、より効果的に実施できることも多い。そのため、それぞれの得意分野を活かせるような役割分担を考えることが重要であり、それによって舞鶴市の観光をより盛り上げていけるのではないか。

全体まとめ

(1) 審査員 アンケート結果

舞鶴市は、これからも住み続けたいまちだと思いますか？

とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない
5	3	2	0	0

※塾生のみ回答（1名未回答）

【理由】

- 自分が生まれ育ったまちだから。
- まちの規模や自然が豊かであることなど、長く暮らしていく上ではちょうどよいと思うから。
- レビューに参加して希望が持てたので、自分の子どもにも住んでほしい。
- 物価の高さや選択肢の少なさなど暮らしにくい部分もある。
- 車社会であり、車がないと非常に不便であるため、歩いて暮らせるまちづくり、歩きたくなるまちづくりは必要だと考える。
- 働いているから住んでいるが、住みたいという特別な理由はない。

(2) 感想

塾生と府大生が審査員と傍聴者という立場で体験してみた感想は以下のようにまとめられる。

【参加してよかったという感想】

- ◇ テーマは広がったが、今後の方向性の参考になった。
- ◇ 普段は関わりのない政策についても説明を聞いたり考えたりできて勉強になった。
- ◇ 様々な立場の人からの意見を聞くことができてよかったし、刺激にもなった。特に学生の意見は新鮮かつ奥深く、印象的だった。
- ◇ このような機会は少ないのでとても価値があると思うし、また参加したい。

【市民が参加することの重要性について】

- ◇ 舞鶴市が地方創生のために積極的・計画的に取り組んでいることがわかった。
- ◇ 舞鶴市には発展の可能性やそのための政策があることがわかった。しかし、そのためには市民がもっと行政に関心を持って参加していくことが重要であると思った。
- ◇ 市民が自ら行政に関心を持ち、活動に参加することは住民自治の観点からも重要であると思う。
- ◇ 「市民ができること」という視点で考えるようにしていることが印象的だった。単に意見を言って評価するだけでなく、市民やNPO、民間企業などの行政以外の主体に何ができるかを考えるのは面白いと思った。

【市民レビューについて】

- ◇ テーマによっては興味・関心のなさそうな人もいるように感じた。テーマに関心を持っている市民を選ぶような仕組みがあってもよいのではないか。
- ◇ 非常に雰囲気のある会場で貴重な体験ができたと思う。

【その他】

- ◇ テーマによって議論の雰囲気などがある程度影響を受けるため、その設定も重要だと思った。
- ◇ 時間をこれ以上長くするのは難しいと思う。

(3) コーディネーターによる総括

【塾生と府大生によるレビューについて】

- ◇ 自分の仕事に関係する政策以外の政策について考える機会や、異なる立場の人と意見を交換する機会は少ないので、参加してよかった、勉強になった、刺激を受けたという感想が多かった。
- ◇ また、参加者による積極的な意見交換が行われたことから、政策づくり塾の活性化と塾生のさらなる能力開発という目的も達成されたと言えるのではないか。

【出された意見の特徴】

出された意見については、特に以下の2点が特徴的であったと考える。参加者の平均年齢が低かったという点が影響しているのではないか。

- ◇ 行政がすべきことだけでなく、民間企業や非営利部門、市民自身ができることという観点からの意見も多く出された。
- ◇ SNS やインターネットのより有効な活用など、時代や社会の潮流に合わせた視点や考え方が重要であるという意見も多かった。

【市民レビューと比べて】

市民レビューと、塾生と府大生によるレビューを比べると以下のような点を指摘できる。

- ◇ 塾生と府大生によるレビューの方が活発に意見が出されていた。また、自ら発言する人も多く、コーディネーターの介入がなくても、参加者同士で意見交換が行われる場面が見られた。
- ◇ 塾生と府大生によるレビューの参加者は、ある程度お互いのことを知っている状態だったが、それでも最初に自己紹介やアイスブレイキングを入れたのは、いきなり内容の話に入るよりもよかったのではないか。参加者同士がどのような人かということはある程度わかっていることは、不安や緊張の緩和という点で重要である。
- ◇ 自分にとって身近なテーマではないから難しいということはよく聞くが、テーマの身近さについてはどちらも身近であると考えられる。そのため、発言しやすくするためには場の雰囲気づくりや、参加者の不安や緊張の緩和も重要である。参加者が互いのことをほとんど知らない状態で実施するならば、なおさら重要になるが、そのためには、今よりも余裕のあるスケジュールにする必要がある。